

2025年 3月 6日発行 会報第1227号

今週のプログラム

(2025年 3月 6日 第1227回例会)

ファイヤーサイドミーティング②

担当：高尾 修 会長

次週のプログラム

(2025年 3月 13日 第1228回例会)

事務局閉鎖に伴う報告会及び意見交換会

担当：藤田芳浩 幹事

第1226回例会 (2025年 2月27日) の記録

<会長の時間>

高尾 修 会長

「(公財) ロータリー米山記念奨学会について」

本日は、2024-25年度ガバナー補佐 上本 博 様と2025-26年度ガバナー補佐 前田要之助様に来ていただいております。ようこそお越しくださいました。上本様、前田様ありがとうございます。2025年2月25日(火)にIM第2組 EXPO フェスタ説明会が開催され、参加してきました。詳細につきましては、後ほど上本様よりご説明がありますので、皆様方にはEXPO フェスタへのご参加をよろしくお願い致します。

「ロータリー友」2月号に、米山記念奨学会について記事が掲載されていまして、ご紹介させて頂きます。ロータリー米山記念奨学会は、1952年(73年前)東京RCによる「米山基金」構想が始まり、1954年に、初めての奨学生をタイから招へいしました。これまでに133の国と地域から2万4,000人以上の留学生に奨学金を支給してきました。日本国内全地区合同プロジェクトとして、毎年900人規模で奨学金を支給し、日本と世界の架け橋づくりに貢献しています。奨学期間を終了し、巣立った米山学友たちが世界中で活躍している姿を見るのは、とても素晴らしいことです。学友の中には、ロータリーに入会し、クラブ会長やガバナーになったり、母国の国会議員や外交官になったり、様々な分野で日本と母国の架け橋として活躍している人がたくさんいます。学友の存在は当事業の成果であり、彼らが組織する学友会は、日本のロータリーにとっても大きな財産です。現在、国内に33、海外にも10の米山学友会があります。その学友会同士が横に繋がりを持つことで、刺激し合い、活躍の場を広げて、日本の会員にさらなる感動と喜びを与えてくれます。今後、海外学友会の数が増える事で、母国との懸け橋のみならず、ロータリーが掲げる国際理解と世界平和実現の一助となると信じています。

千里メイプルロータリークラブは、これまでお世話した米山奨学生の方は17名で、2024-25年度の奨学生は、大阪大学 人間科学部 人間学科 グエン カム フン さんです。

＜お客様＞ 2024－25年度 ガバナー補佐 上本 博 様
2025－26年度 ガバナー補佐 前田要之助 様

＜出席報告＞ 山本 友亮 SAA 補助

会員数 17 名（内出席免除会員 1 名）

本日の出席者数 9 名

（内出席免除会員 1 名・名誉会員 0 名）

本日の出席率 60.0%

＜ロータリーソング＞ 全会員

♪我等の生業♪

＜本日の食事＞



＜幹事報告＞

藤田 芳浩 幹事

1、先日、相原正雄会員よりご質問が有りました「IMロータリーデー」は、今年度については、「IMロータリーEXPOフェスタ」に変わっています。

本日、上本 博ガバナー補佐様から詳細についてご説明が有りますので、宜しくお願い致します。

2、今後のプログラムの確認を致します。

3月第1週6日（木）は、「夜例会」18：30～ 場所：ル・ジャルダン
プログラム：高尾 修 会長主催「ファイヤーサイドミーティング」です。

第2週13日（木）及び第4週27日（木）は、「昼例会」12：00～です。

場所：江坂ゴルフセンターレストランにて開催いたします。

内容は、追ってメール等でご連絡致します。

皆様のご出席皆様宜しくお願い致します。

尚、第3週20日（木）は、祭日で休会となっています。



<SAA報告>

山本 友亮 SAA 補助

<委員会報告> 無し

<スマイルBOX>

※ニコニコ奉仕金

水島会員 万博は、どんなかな。

相原会員 コメントなし

※ロータリー財団

水本会員 2月も終り！早いですネ!!

高尾会員 上本ガバナー補佐 ようこそ！

藤田会員 やっと暖かくなって来ました。上本ガバナー補佐様宜しくお願いします!!

※米山記念奨学会

小山会員、山本雅之会員 コメントなし

※メイプル基金

相原会員 欠席のお詫び。

山本友亮会員 上本ガバナー補佐 いらっしゃいませ。

藤田会員 山本加奈子様ようこそ!!

小山会員 コメントなし

※ラオス基金

藤田会員 前田様ようこそ!!



2024-25 年度ガバナー補佐 上本 博 様 (右)

2025-26 年度ガバナー補佐 前田要之助様 (左)

《IM2組 ガバナー補佐訪問 》

上本 博 ガバナー補佐

先月、吹田 RAC の今年度初例会の時に次のようなことを話しました。

皆さんは、毎朝必ず歯を磨くでしょう。それと同じように心を磨いていますか、私自身今年は、ロータリー精神を通して心を磨こうと誓いました。RACの会員からロータリー精神とは何ですか。という質問がありました。ロータリー精神とは、皆様には釈迦に説法ですが、なんといっても、まず超我の奉仕 (Service, Above Self) でしょう。無我の奉仕、もっと分かりやすく言いますと。RACの皆さんは例会のはじめに国歌君が代に続いてローターアクトソングを歌われましたね。その中に答えがありましたね。『熱き血潮を誠と愛にそそぎ尽くして悔いあるべきや』の中の『誠と愛』です。そそぐのではなくそそぎつくすのです。誠とは言偏に成る。とありますとおり、言ったことは誠心誠意、行い成し遂げること。

次に愛とは何かということです。これは大切です。愛とは好きとか愛してるということではありません。私は仏教徒ですが、キリスト教のヨハネ伝の中に『神は愛なり』とあります。そして愛とは『自他一体の自覚』と言っています。一番愛が深いのは母親と子供ですね。母親の胎内にいるときからへその緒で繋がっている。自分の体に変えても子供を助けたい。と思うのが母の愛で最大のものです。吉田松陰が、ペリーの黒船が来航した時、国力の差に驚き、黒船に乗ってアメリカに行き知識を身につけなければと思いますが、『かくすればかくなるものとしりながらやむに已まれぬ大和魂』投獄され、やがて処刑されます。処刑の前日に、郷里の山口県、萩の母に宛てた手紙の中に次の歌が書かれていました。『親を思う心に勝る親心、今日のおとずれ如何に聞くらむ。』というのがあります。飛脚でその手紙が届くころは、処刑された後です。号泣されたそうです。愛の力は偉大であります。最後の辞世の句は『身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂』ということで明治維新に至るわけです。我々が、報いを求めない、超我の奉仕、その奉仕の理想を掲げて奉仕するのも、相手の方が困っていれば何とか助けてあげたいという『愛の思い』からです。社会奉仕、国際奉仕もそこから来ますね。この精神で心を磨いていきたいと決意しました。

ところで、先日の2月23日は天皇誕生日でしたが、ロータリークラブ創立120周年でした。創立当初は奉仕という概念がありませんでした。創始者ポール・Pハリスが知人も親戚もないシカゴで弁護士事務所を開業、真の友人がいない。寂しくて仕方ない。そこで仕事上のクライアントで顧客の中のシルベスター・シールに相談を持ち掛け信頼のおける仲間を集め、その中でビジネスをしないかと打ち明け、それに賛同してくれたのであと二人を集めて四人でユニティビル711号室で始めたのが120年前の1905年2月23日でした。一年後、ある程度的人数が増えたが、シカゴでどうしても入会してもらいたい人がいた。その人こそ社会奉仕の父と言われる特許弁理士のドナルド・カーターです。入会を勧めたが『親睦と相互扶助だけでは意味がない。もっと公共のためになることをすべきである。』といって断った。クラブに持ち帰り、もっともだということで、ドナルド・カーターの提言で1907年（公衆用手洗い所）社会奉仕活動

が始まり、爆発的に奉仕団体としてのロータリークラブに発展していったわけです。

あと一人忘れて話ならない人がいます。1923=24年RI会長ガイガン・デッカーです。
(決議23-34のときのRI会長、ロータリーのバイブルまたは般若心経と言われている)

1916年の世界会議においてガイ・ガンデッカーの提言で、それまでは単に社会奉仕団体であったロータリークラブを3つに分ける決議がなされ1917年から実施された。つまりクラブ奉仕・職業奉仕。社会奉仕の三つです。その後、国際奉仕ができ、2000年代に入って青少年奉仕ができ、五大奉仕部門となったわけです。その順番が大切です。

ロータリーの最大の目標は、ロータリアン一人一人が真のロータリアンになること。ガイガン・デッカーが言ってるのは、「ロータリーは、親睦と学びを通じて自分自身を、事業を業界をそして社会全体をベターメント・向上させる運動である」と言ってます。それが三つに分かれた。

その一番目一番大切なのがクラブ奉仕です。クラブ奉仕は、他の奉仕と違って会員がクラブに対してまた、会長・幹事等役員は、会員に対して奉仕をする。クラブ内への奉仕、ここが一番大事です。一番大切なので我が吹田ロータリーでは、副会長がクラブ奉仕全般（親睦委員会、プログラム委員会、広報雑誌委員会等々）を統括しています。そういった意味で例会の充実、会長の時間、卓話が重要であるわけです。例会の出席義務があるのはそのためです。私は、メイクアップも含めますが30年間皆出席です。ここから学びと奉仕の精神が培われます。次に一番わかりにくいのがロータリーの最大の奉仕の一つである職業奉仕です。社会奉仕はクラブが社会に対して奉仕をする。国際奉仕は国際的な奉仕、青少年奉仕は青少年に対して奉仕をする。だったら職業奉仕とは何だろうということになります。我が吹田RCの職業奉仕委員会は、吹田産業フェアの時、市民無料相談会を実施しています。司法書士、弁護士、医師、弁理士、薬剤師等々が並んで市民に相談を通して奉仕をする。荘厳な風景です。

また、市内の中学校に出向いて出前授業をする。逆に生徒が事業所に出向いて見学する。それは、職業奉仕の極々一端であります。職業奉仕はロータリーの金看板であります。一丁目一番地の職業奉仕は、そのような一部の会員が奉仕をするのではありません。全会員が行うものです。私が入会しました30年前当時は一業種一人の入会制限がありました。これは素晴らしく、ロータリアンでない人からもロータリーは一業種一人なんですねと言われたものです。誇りに思いました。当時吹田ロータリーの会員は約90名でしたから90種類の職業がある。その会員が、最も大切な充実した例会で学んで築き上げ磨き上げた冒頭申し上げたロータリー精神（誠と愛）で顧客に対し、ロータリーの名は出さなくても誠心誠意、真心で接する。言ったことは成し遂げる。社員にも同様、家族に地域社会においても、例会で培ったロータリー精神が生かされてきます。それがロータリーの値打ちです。だからロータリアンの三つの義務の最大の義務、例会出席義務があります。ロータリーの最大の目的がロータリアン一人一人の向上なのです。その向上した高潔なロータリアンが社会に、国際に、青少年に奉仕することに最大の意義があります。

時間が参りましたので、これで終わらせて頂きます。ありがとうございました。

